

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470700986		
法人名	株式会社ライフケア		
事業所名	うさぎグループホーム		
所在地	三重県松阪市射和町644-2		
自己評価作成日	令和 4 年 9 月 20 日	評価結果市町提出日	令和4年12月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=2470700986-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 4 年 10 月 5 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念の家庭的を主体に日々の生活の中で(その人らしさ、思いを大切に、笑いのある暮らし)そんな当たり前の生活をスタッフが常に寄り添いながら協力支援することを念頭に介護させてもらっています。又、一人一人が出来る事を模索し施設での生活に生きがいを感じてもらえるように、スタッフ一同が常日頃考え実行しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設17年目で近隣地域にはお寺が数件建ち、のどかな環境の中に立地している。敷地も広く散歩、野菜や花を職員と一緒に育てる事で気分転換や外気浴が出来ている。またデイサービスが併設され、入浴設備・昼食の協力体制もある。コロナ禍が始まって2年以上が経過し、現在も収束の見通しが立っていない昨今、面会や外出の制限を余儀なくされ、また地域住民との交流も困難な状況の中、ストレスを持つ利用者もいる。職員は事業所内で季節の行事やレクリエーションを計画し、利用者に笑顔で楽しんでもらえるような支援に取り組んでいる。施設長は看護師で、医療関係者と24時間医療連携の確保や、口腔ケア・看取りケアを実践している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的は常に皆が頭に入れてケアをしている。地域との関わりはコロナで困難であった。	開設時の理念を基本に、毎年理念を職員全員で決めている。今年は「安全に気を付ける」とし、家庭的で温かく安全な生活を送って頂くように、笑顔で支援をするために理念を共有して実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ発生から数年経つが、交流が困難で出来ていない。	日々近隣の方々とは挨拶や声掛けで交流は出来ていたが、ここ数年コロナウイルス感染症拡大で外出の自粛や面会制限を実施した為、地域交流は鈍りになっている。町主催の夏祭りには、コロナ禍の状況を見ながら参加できた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ発生から出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議はコロナ発生から中止しており、本来なら手紙等で事業報告等定期的にする事で繋がりを保てたが出来ていない。	新型コロナウイルス拡大のため開催は中止としたが、事業所内には会議録としての記載はある。事業所の状況の文書での報告を各構成員に前向きに考えていたが、町役場のみの報告になってしまった。	コロナ禍の昨今であるが、今後地域に開かれた事業所となるために、さらに構成員から意見を頂き、行政及び関係機関との更なる関係作りが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	適宜連絡を取りながら不明点、理解困難時等連絡を取っている。	生活保護者の受け入れで町の援護課担当者とは日々連絡を取り合っている。町の集団指導には、ズームで参加した。コロナ禍で事故報告等いろいろと相談し協力関係は築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設全体の勉強会、定期カンファレンスで勉強会を行い再認識、再確認し身体拘束しないケアを心掛けている。	身体拘束適正化委員会を3カ月毎に行っている。勉強会も熱心に取り組み、常に拘束しないケアについて話し合う機会があり、弊害については常に念頭に置いてその都度注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設全体の勉強会、定期カンファレンスで勉強会を行い再認識検討し認し虐待防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度の利用者が1名あり意識付けは出来ているが、今期も勉強会の機会はもてていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に契約書・重要事項説明書に目を通してもらい、締結当日には理解頂けるように十分な時間を設けて説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様とは電話、メール、荷物持参時の訪問などで要望等を聞かせてもらい反映出来るように心掛けている。利用者様においては日々の生活の中で要望や思いを聞き取れるように心掛けています。しかし、認知症の重度の方については疑問である。	コロナウイルス感染症対策の為、面会制限が必要な時期で直接家族から意見や要望を聞く機会はコロナ禍以前より少ない。ケアに関する要望や行事に関する提案を聞き、全職員で話し合い業務に活かしている。意見・要望は毎月「うさぎ便り」を家族に渡し反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が職員の意見を聞く機会を設け、代表に伝えているが反映されていない事もある。	管理者は、毎月のユニット会議や日常の業務の中で職員の意見や提案が出しやすい環境づくりを心がけている。職員の提案から施設内での野菜作りに施設長の人脈で、念願の耕運機を頂く事が出来、野菜作りに大いに役立っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表は常に現場に入り個々の職員の勤務状況を把握しているが、職場の環境、条件整備には至っていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材不足で研修が困難であるが、個々の職員の能力を管理者が把握しており勤務時間内においても指導・教育が出来ている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前より人材不足で交流を持てず、この数年はコロナで出来ていない。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に家族様に情報収集を行ったり、情報収集が困難な場合は日々の関わりの中で要望を言いやすい環境が作れるように努め安心して生活出来るように支援している。しかし、入居前の情報収集項目が確定されていないのでシートを作製することとする。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談、入居後の介護記録の送付、LINE動画等にて状態報告をし、出来る限り家族様の不安を軽減するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様、本人の要望を事前に踏まえた上で日頃の様子をしっかりと観察し、定期カンファレンスで情報交換を行い必要な支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護度により困難はあるが、出来得ことは協力しながら日々を共に過ごしている。シーツ交換、洗濯物、食器洗い・拭き、野菜洗い・切り等。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	関わりが遠のきがちな家族様には電話・メール等で状況確認し、季節事のイベントに参加(父・母の日メッセージカードの記入)して頂き関心を持って頂くよう状態も細かく説明し支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナで面会、外出は難しくなり馴染みの方と会うことは出来ないが、手紙、LINE等で支援している。	家族の情報や利用者の話などから、馴染みの人や場所を把握して繋がりを大切にしている。コロナ禍で面会の制限や外出の自粛の中、利用者同士が施設内で会話を楽しんで新しい馴染の関係が育まれている。また、利用者と家族が電話で交流できるように家族に依頼し実現した。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	介護度により孤立しがちな方もいるが、病状に問題ない場合はホールで一緒に過ごす事の支援は常に心掛けています。皆がトラブルなく良好な関係が保てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的に連絡を頂く家族様もみえ、関係性を大切にし連絡を取り合っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	把握できない出来にくい利用者様もみえ全ての思いを理解把握は出来ないが、日々の生活の中で意思確認を随時行い意向の把握に努めている。意思表示が不可能であれば、表情等でくみ取る努力をしている。	日常の関わりの中で出来るだけ会話の時間を持ち、利用者一人ひとりの思いや希望を発する言葉から把握するように心がけている。意思疎通が困難な場合は仕草や家族からの情報を参考に、本人の思いに近づけるような支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまで情報シートを作製してこなかったが、情報漏れ等があり、シートを作製することで今まで以上の利用者理解に繋がると思う。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の介護支援で情報収集したことを定期カンファレンスで情報の統一化をはかり、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネが家族・本人の意向を聞き、カンファレンス等でスタッフと共有しケアプランを作成し、定期的に検討を行う。	介護支援専門員が日々の支援にも関わっている。カンファレンスを毎月開催、個々のケースについては職員の意向も確認している。基本短期目標は3ヶ月で支援内容をモニタリング、長期目標6ヶ月で計画の見直しをしている。家族・医療関係者との連携もできており、現状に即した介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報の共有の為、書面だけでなく口頭での再確認もしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナで全てのニーズに対応出来ていないが、出来る限り柔軟に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナで関わりが途絶えており支援が出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医以外にも病状にあった病院であったり、馴染みのかかりつけ医での医療が受けて頂けるように支援している。	8名の利用者が協力医を主治医としており、月1回の訪問診療を受けている。主治医は事業所の看護師と共に24時間体制をとっており、利用者・家族の安心に繋がっている。1名の利用者は、馴染みのかかりつけ医の診療を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制で介護士が対応しており、介護スタッフは適宜気づきを報告・相談し適切な受診・看護に至っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時サマリーを活用し、適切なケアがされるように情報報告し支援している。常日頃の関係づくりはしていない。コロナ中の為入院中、退院時も電話での情報交換・相談になっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様に早期より最終的な方向性を伺う機会を設けるようにし、事業所で可能であるか否かも確認しながら方針を共有している。	「看取り介護の指針」と「同意書」を入居時、急変時に家族に説明している。重介護の利用者が多い中、24時間医療連携体制が整っている。状態変化があった時にはその都度、チームで確認を行い、意向に添った看取り支援に取り組んでいる。今年2名の看取りをした。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナで外部の救急蘇生等が出来ていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は定期的に行い、特に月1回車乗訓練をしている。	年2回の定期的な避難訓練は「うさぎ消防計画書」により実施はしている。災害時のマニュアルの活用、地域との協力体制の確認は、コロナ禍で鈍白になっている。月1回の車乗訓練を通じて災害時の避難方法を話し合う機会を持ち職員の災害に対する危機意識は高い。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	心掛けてはいるが、難聴の利用者様への声掛けはプライバシー保護が出来ていない事がある。(トイレ)	一人ひとりの人格を尊重しており、特に声掛けは職員全員で常にプライバシー保護に配慮するように心がけて支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己表現が出来る利用者様には選択肢を、出来ない方には表情でくみ取るように努力している。(9時のドリンク、何が食べたい?)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設時間に流されがちであるが、出来る限り本人ペースでの生活を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節の衣替え、整容には気を付けている。(髭剃り、散髪、化粧等)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食、飲み物を選択する機会を設けたり、調理補助や食器拭き等出来る利用者様にはして頂いている。	毎日の朝・夕食と、土・日曜日の3食は職員が食べやすい物を美味しくを心がけて調理している。また旬の野菜を用いて食事を楽しむ工夫も欠かさない。行事食や誕生日食は、利用者の希望の食品を献立に取り入れて調理するので食事が楽しい時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事摂取量を記録し、栄養状態は嘱託医に随時指導を受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に個々に応じた口腔ケアを行う。残歯がある利用者様は定期的に口腔ケア・歯科受診を受け指導設ける。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄誘導時間というベースは設けているが、個々の排泄パターンに合わせて出来る限り個別対応するように心掛けている。	排泄記録表で排泄パターンを見てトイレ誘導を試みている。支援が必要な時には、自尊心に配慮した対応を心掛けている。排便に関しては、体操や散歩などで促せるよう支援し、自立を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲み物(水分管理)や、トイレ時の腹部マッサージ等で促すが、状況によっては主治医と相談し緩下剤投与、また看護師による便摘で対応している。運動・捕食等で個々にあった予防も対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日時予定を組みながらの入浴である為本人希望での入浴は出来ていない。入浴時の対応等で気分よく入浴して貰えるように努力している。	基本週3回の入浴で、「楽しく」を心がけて入浴する支援を行っている。職員と会話が出来る利用者の本音が聞ける時間でもある。また、ゆずなどで季節感を出し、入浴を楽しむ工夫もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの生活習慣に合わせて就寝される方もみえる。昼寝、日当たりの良い場所でのうたた寝等で休息してみえる方もみえる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬箋を綴り、処方説明を記録に残し理解している。誤薬が無いように用意、翌日の確認、服用時の確認をしている。又確実に内服出来たかの口腔内確認も行っている。抗精神薬、睡眠剤等は適宜情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	負担にならないように配慮しつつ、出来る事を日々模索しながら支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望には沿うことは困難であり、またコロナもあり遠出は困難であるが、近所の散歩、ドライブ、外気浴等で外に出る機会を設けている。	コロナ禍で外出自粛が続いている。職員は、外出が出来ない分レクリエーションで楽しいと思って貰えるように心がけている。事業所周辺や庭の散歩、集積所へのごみ捨て、草花の鑑賞など外気浴を兼ねたプチ外出支援に力を入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様によっては事務所で預かっており必要に応じて援助するが、現在はお金を使う機会が無い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら希望される方は無いが、こちらからの援助で手紙・LINE電話等をしてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時節を感じる壁面創作をし、心地良い空間作りに努力している。	コロナ感染症予防のため、換気と空調管理で清潔で快適な空間作りをしている。玄関先にソファを置き日光浴が出来る工夫がされ、仲の良い利用者同士の交流の場所として使用している。利用者の作品の壁画が季節感を演出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭い共同空間のホールなので個々が思い通りに過ごす事は難しいが、状況に合わせて席・居場所を変更し居場所の提供をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険の無い範囲で利用者様の使い慣れたものを利用し心地よく過ごして頂く工夫を心掛けています。危険になった時には家族様に理解を得て対応させてもらっている。	慣れ親しんだ調度品を持ち込み、本人と家族の思いで自室に配置している。室内は清掃・整理整頓が行き届き、清潔で居心地の良い自分らしい居室になっている。冬のみ加湿器と必要時に吸痰器を設置した居室もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	理解・出来る事を把握した上で、危険のない範囲で見守り、自分でできる事を減らさないように支援している。(場所表示等)		